

# 令和元年度 租税教育実践発表会資料

石巻市立河北中学校 教諭 平山 隆之

# 「主権者教育に位置づけた租税教育の実践」

石巻市立河北中学校 教諭 平山 隆之

## 1 主権者教育としての租税教育の意味

日本の多くの労働者は、源泉徴収方式で納税している。そのため、日本は他国と比べると、税に関する意識が低いと言われている。しかし、税の使い道を考えることは、わが国の将来を考えることと同じである。とりわけ、社会保障制度のあり方は、わが国の財政の問題、そして、生徒たち自身の生活に関わる問題でもある。

18 歳選挙権の実現で、主権者教育の充実が求められている。そこで、租税教育も主権者教育の一つとして位置付けたい。主権者教育に位置付けた租税教育では、単に税制度を「教える」授業だけでなく、生徒自身がどのような制度が望ましいのか、どのような使い道が望ましいのかを「考え、議論」する授業に質を転換していく必要がある。本稿では、中学校 3 年生の社会科教育の一環として行った実践を報告する。

## 2 生徒の実態

租税教育の授業を実践するにあたって、税に関するアンケート調査を実施した。以下、その結果である。

【税に関するアンケート】(実施日 9 月 3 日, 対象生徒 28 人)

問1 あなたが知っている税の種類を書いてください。
消費税 (24), 所得税 (2), 関税 (7), 年金, 固定資産税, 住民税 (2), 国税
問2 税金はどのようなことに使われていると思いますか。
交通整備 (3), 老人, 米軍, 政治, 工事, 施設を作る (6), 会社の給料, 復興支援 自分たちの生活の中で使われている, 国が使うお金を国民が出している (10), 高いイメージ, 年金 (4), 公務員の給料 (2), 借金の返済, 社会福祉, 学校の用具 (2)
問3 税金にどんなイメージを持っていますか。
めんどくさい (2), 8%は数えるのが難しい, あまり良くないイメージ (2), 国 (2), 嫌, 大変 (2), 負担が大きい, お金を払うイメージ, 特になし (3), たくさんのお金 (2), 国の偉い人が使うイメージ, 日本に協力, だんだん上がっている
問4 税金について疑問に思っていること, 知りたいことは何ですか。
なぜ税をあげる必要があるのか (6), なぜ「税金」という名前になったのか 税金がある理由 (4), 税金を何に使っているのか (2) なぜ買い物したときに税込みで 払わなければいけないのか, どうやって払う額を決めているのか, どのくらい払うのか (2), 特になし (2), 軽減税率とは何か

問1から生徒たちは自分たちが払う消費税以外の税についてはほとんど知らないことが分かる。問3の税のイメージについては、全体的にマイナスイメージをもっていることが分かる。納税の側面から税を捉えており、税がどのようなものに使われ、どのように人々の生活に役立っているのかという「税の意義」を理解していないためと考えられる。問4の知りたいことでは、税の意義や使い道だけでなく、税制度のあり方についての疑問ももっていることが分かる。

### 3 指導にあたって

- (1) 税の種類や制度を指導するにあたっては、身近な事例を扱ったクイズを用いて楽しい授業を行う。
- (2) 税の使い道を指導する際は、「私たちの暮らしと税」のパンフレット等を活用し、身近な生活や震災復興支援にも多く使われていることを理解させる。その上で「税金がなかったら私たちの生活はどうなるのか」を考えさせ、税の意義を理解させたい。
- (3) 主権者教育では、国家・社会の形成者としての意識をもち、自身が課題を多面的・多角的に考え、自分なりの考えを作っていく力を育むことが重要となっている。また、根拠をもって自分の考えを主張し説得する力を身に付けていくことも求められる。主権者教育の一環として、「所得税の望ましいあり方は何か」、「消費税増税に反対か賛成か」などの課題を設定し、討論する学習を取り入れる。

### 4 指導計画

時間	学習内容	主な学習活動	指導資料
1	私たちの生活と財政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・税の種類や制度を理解する。</li> <li>・所得税について望ましい制度のあり方を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書</li> <li>・「私たちの暮らしと税」パンフレット</li> </ul>
2	政府の役割と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・税がどのようなものに使われているか調べる。</li> <li>・日本の公債残高の状況を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書</li> <li>・国税庁HP「国税庁の税の学習コーナー」</li> <li>・財部誠一HP「借金時計」</li> </ul>
3	社会保障のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の社会保障制度を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書</li> </ul>
4	少子高齢化と財政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の社会保障制度の課題を理解する。</li> <li>・消費税の増税について、賛成か反対か議論する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「私たちの暮らしと税」パンフレット</li> <li>・資料集</li> </ul>

## 5 実践

### (1) 1時間目：「私たちの生活と財政」

①税金クイズを行い、税の種類や制度を理解させる。

#### 【税金クイズ】

- ・宝くじで得た賞金には、税がかからない。○か×か。
- ・クイズ番組の賞金には税がかからない。○か×か。
- ・天皇は「国民」ではなく、「国民の象徴」なので税金は払わない。○か×か。
- ・高校生のアルバイトには、税はかからない。○か×か。
- ・父が交通事故で重傷を負った。損害賠償金1000万には税がかからない。○か×か。
- ・下の文章の中で先生は何種類の税金を払ったか。

【先生は、今月もらった給料で、新しい自動車を買って、温泉旅行に行くことにしました。途中で、ガソリンを入れ、ビールとつまみを買いました。泊まったホテルでは、テニスやゴルフを楽しみました。】

②所得税について、A～C、どちらの制度が望ましいか考え、班でミニ討論をする。

A：所得に応じて、税率を決める。

B：どの人も同じ税率にする。

C：その他の方法

### (2) 2時間目：政府の役割と課題

①税金がどのようなことに使われているか、「私たちと暮らしと税」のパンフレットの税金クイズを行う。

②パンフレットや国税庁「税の学習コーナー」のホームページを使って税金の使い道について調べさせる。「税がなくなったら、暮らしはどう変わるか」、自分の言葉でまとめさせる。

③「借金時計」のホームページを活用して、日本の国債残高の状況を理解させる。

### (3) 3時間目：社会保障のしくみ

①日本の社会保障制度について理解させる。

②北欧の高負担・高福祉型やアメリカの低負担・低福祉型の社会保障制度をクイズ形式で理解させる。

#### 【クイズ（一部のみ掲載）】

- ・フィンランドでは教科書は無料でもらえる。
- ・フィンランドでは、高校まで授業料は無料である。
- ・フィンランドでは、消費税は5%である。
- ・フィンランドのお隣スウェーデンでは、18歳以下の医療費は無料である。

(4) 4時間目：少子高齢化と財政

- ①日本の社会保障制度の課題について理解させる。
- ②「消費税」を上げるべきか？上げない方がよいか？根拠となる資料を探し、自分の考えを書く。

【主な生徒の考え】

消費税の増税に賛成	反対
<ul style="list-style-type: none"><li>○日本の国債残高は 800 兆円越え！返さなければ、次世代に負担を残すことになる。</li><li>○他の国と比べると消費税率は低い。</li><li>○食料品など生活必需品以外の消費税を上げる。（軽減税率の考え方）</li><li>○少子高齢社会であり、社会保障費が増加している。</li><li>○年金は、保険料だけではまかなえず、多くの人が負担する消費税が適切である。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>●税の使い道を考える必要がある。無駄使いをしない。</li><li>●不景気の今、増税をすればますます商品が売れなくなる。</li><li>●消費税の増税は、低所得者や年金で暮らしている高齢者の負担が大きい。消費税ではなく、法人税など他の税を上げればよい。</li><li>●まずは、防衛費など、他の予算を削り、社会保障費にあてるべき。</li><li>●年金は、支給開始年齢を引き上げ、支給額を減らせば良い。</li></ul>

(6) 成果と課題

- 3時間目の調べ学習では、生徒が税の必要性を感じる事ができた。
- 2時間目や4時間目の討論学習では、様々な意見が出されたが、全員が自分の考え持つ事ができた。
- ▲討論学習では、事前に資料を読み取り、考えの根拠を探す活動が必要になる場合がある。その場合、資料の読み取りの段階でつまづいてしまい、討論の活動までたどり着けない生徒が出てきてしまう。「全ての生徒が参加できる討論学習」は、どのようなあり方が望ましいか、今後の授業実践を通し、追究していきたい。